

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	小西 真人	学校名	神戸市立鹿の子台小学校
実施学年	小学5年生	教科	国語科
单元名	みんなの過ごしやすい町へ（報告文）		

《学びを深めたいポイント》

読み手を意識し、相手に伝わる文章を筋道立てて書く経験を積むために、自分の地域の過ごしやすいポイントを見つけて報告文を書くという実践を提案する。この実践では、自分たちが住んでいる地域の過ごしやすさに目を向け、町の工夫について調べていく。調べた情報の中から必要な情報を取捨選択し、より相手に伝わるにはどのように伝えたらよいか考えるところに学びを深めるポイントがある。さらに、学びを深めるポイントとして読み手を明確に意識し、どうしたら相手にとってわかりやすい文章を書くことができるかについて考える場面も設定した。

本時までの学習活動では、交通安全や市民図書室の運営に取り組んでおられる地域の方へのインタビューを見るなどして、地域の過ごしやすい工夫について考えてきた。本時の学習では、文章を書くための核となる「題材」と「読み手」を設定する学習活動とする。発表ノートで調べてきた情報をまとめていしながら、自分の考えをもち、その考えについて友達と交流する活動によって子供たちの思考の高まりを期待したい。

《SKYMENU 活用のポイント》

本単元での発表ノートの活用は大きく分けて3つの方法がある。

まず1つ目は報告文を書くための調査において、必要な情報をメモするために活用することだ。発表ノートの利点としては手軽にノートを作成することができる。色を変えるなどして自分なりにわかりやすくなるように整理を吸い込むことができる。さらにページをわけることで情報の分類も行うことができるところである。さらに今回の調査では、インターネットを多く活用したので、発表ノートを活用したことでインターネット上の情報を引用することも容易であった。

2つ目の活用は、成果物を作るための活用である。今回の報告文では、内容を2つのノートに分けて作成した。なぜ2つに分けたかという、1つのノートのページ数が多すぎると、児童によってはページを削除してしまう可能性があるなど、児童によっては書きにくいと感ずることがあるからだ。今実践では、「前半」「後半」と分けて提出するようにした。それぞれ教師側が作成したフォーマットを児童に配付し、大きく構成が変わらないようにした。

3つ目の活用方法は、友達との意見交流である。自分で文章を読みなおし、推敲した後に友達と読み合い文章についてよかったところや質問点などを共有した。友達と共有し学んだことをさらに自分の文章に反映することによって、文章に深まりが出た。

《実践内容》

本時のめあて ◎伝えたい題材と伝えたい読み手を決めて、設定した理由を説明することができる。 ○題材と読み手を決めることができる			
	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1. 本時のめあてを確認する (1) 前時の振り返りをする (2) 調べた情報について分類したノートを確認する	前時で使用した発表ノートを開くことによって振り返りを行う。 インタビューを聞く前から知っていた鹿の子台の工夫 公園が多い ・トイレがある公園 病院がある ・水が飲める公園 色々なスーパーがある ・自動販売機がある 電車やバスが通る ・横断歩道がある 美容院もある ・小学校が近い。中学校がある。 地域の人が町を守ってくれている 近くにイオンなど遊ぶ場所がある	タブを複製することで、前時のノートをタブの操作だけで振り返りしやすくする。
展開	2. どのような題材や読み手で報告文を書きたいか考える。 ・調べた情報の中から特に興味をもったものについて絞らせる。 ・比較検討するために、いくつか題材の候補を挙げさせる。 ・書きたい題材に対してさまざまな読み手を考えるようにする。 ・題材は同じでも読み手によって伝えたい思いに違いがあることに気づかせたい。 3. 書いた内容について友達と読み合い、感想を発表ノートに書いて交流する。 ・班で机をくっつけた後、端末を班の中で交換して、お互いが書いた考えを読み合う。 ・良いと思った文についての感想を書いたり、もう少し詳しく聞きたいことについての質問を書いたりする。	発表ノートを配付しておき、書きたい題材について記入できるようにする。 配ったノートの中には、例を示すためのノートを配っておく。 題材 例) サマー・フェスタ 伝えたい思い サマー・フェスタはここ3年間行われていない。 サマー・フェスタについて知らない人に楽しさを伝えたい	書く内容ごとに色をつけておくことによって、視覚的に書きやすいようにする。 読み手 3年以内に引っ越しをしてきた人 緑の枠は友達からの意見を書くスペースとする。班の友達からの意見を書いてもらう。

まとめ	4. 友達からもらった意見を参考に題材と読み手について考え直す。 ・活動が終わったあとは発表ノートを提出する。	自分の意見と友達の感想が書いてあるページをコピーする。コピーしたページに友達からもらった感想を基に考えた自分の考えを書いていく。 【一覧から選んで提出するところ】 	提出箱を2つ作成しておくことで成果を確認しやすくする。 1つ目の箱 1番自分が納得している題材と読み手が書いてあるページを選んで提出 (これからの成果物の見通しを確認するため) 2つ目の箱 本時で取り組んだ発表ノートをそのまま提出 (本時の評価をとるため)
-----	---	--	---

《実践を振り返って》

今回の実践で、発表ノートが適していたことは2つある。1つ目のメリットは、振り返りがしやすく、情報を積み上げられることである。書いた発表ノートはいつでも開くことができる。さらに複数展開することもできるので、以前に調べた情報も容易に取り出せることができる。また、発表ノートは印刷することによって、手作業で印をつけたりするなどして情報の分類作業ができる。そのことは、自分が伝えたい内容を記述するために最適な情報を選んで書くことにつながる。

2つ目のメリットは、友達との情報共有が行いやすいということだ。授業中では、教師が画面掲示をすることによって模範的な活動をしている児童の様子を取り上げることができ、書くことに苦戦している児童のヒントとなりうる。さらに、書き終えた児童がいた場合は、児童同士でも確認し合うことのできる設定にした提出箱を用意しておけば、他の児童の書いた作品を参考に、自らの学習活動を深めるきっかけにもなる。紙であれば、周りの友達の文章を見ることはできるが、発表ノートを活用することで席を立たずともたくさんの児童とつながることができるようになった。それは大きな利点だと考える。

このように発表ノートの利点を生かしながら今回の実践では、筋道立てて文章を書くということに取り組んだ。たくさんの情報の中から一番自分が納得する題材と読み手について文章を書くことができ、納得感をもって学習に取り組むことができたように思う。これからも発表ノートの利点を生かしながら学習活動を計画していこうと思う。